

「2020年にむけた新たな挑戦へ」

東日本大震災から5年、東北そして日本は、立ち直ることができたのであろうか。

今なお18万2千人が仮設住宅等で暮らしている現状を踏まえれば、復興は成し遂げられた、とは到底言えない。政府は、一日も早くこれらの人々が普通の生活を取り戻せるよう取組みを急ぐ必要がある。

一方で、これからの東北を創ろうとする多くの取組みが、若い世代を中心に生まれている。彼らの活動を支え、伸ばしていくことが、東北の新たな成長へと繋がる。自治体は既に限界を迎えており、地域だけに任せておくことはできない。国民全体で支えていくことが必要である。

東北には、豊かな自然に恵まれた多くの幸がある。それは世界に誇るべきものであり、もっと発信していけばよい。地域がグローバルな社会と直接繋がることで、新たなイノベーションも生まれる。「東の食の実行会議」が発表した東北の食に関するビジョンとアクション・プランを道標として、一次、二次、三次を越えて連携する日本の新しい「食」産業のモデルを東北から発信し、日本の産業のあり方を変えていく。

東北そして日本の将来は、決して楽観できるものではないのも事実である。人口減少も高齢化も加速している。しかし、見方を変えれば、課題先進国・日本の中の課題先進地域が東北である。東北が変わることができれば、日本が変わることができる。

震災を忘れることなく、5年毎に取組みを検証していくことが必要である。それは5年毎に成果を誇ることもなければ、遅れを非難することでもない。次の5年にしっかりとつなげていくために行うものである。

2020年、日本は東京オリンピックを迎える。そのとき東北そして日本を支えてくれた世界の人たちに対し、震災後ではない新しい東北の姿を見せることができるか――、日本の未来はそこにかかっている。

2016年3月5日

日本創成会議 座長
増田寛也